

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成19年11月22日(2007.11.22)

【公表番号】特表2007-517059(P2007-517059A)

【公表日】平成19年6月28日(2007.6.28)

【年通号数】公開・登録公報2007-024

【出願番号】特願2006-547564(P2006-547564)

【国際特許分類】

A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/00	(2006.01)
A 6 1 K	31/454	(2006.01)
A 6 1 P	25/16	(2006.01)
A 6 1 P	25/28	(2006.01)
A 6 1 P	21/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/14	(2006.01)
A 6 1 P	25/20	(2006.01)
A 6 1 P	25/24	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	45/00
A 6 1 P	25/00
A 6 1 K	31/454
A 6 1 P	25/16
A 6 1 P	25/28
A 6 1 P	21/00
A 6 1 P	25/14
A 6 1 P	25/20
A 6 1 P	25/24

【手続補正書】

【提出日】平成19年10月3日(2007.10.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

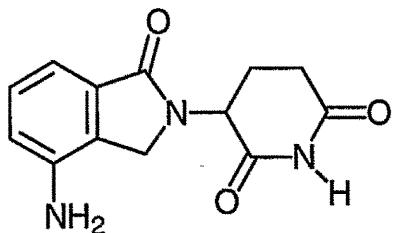
【請求項1】

免疫調節化合物、又は医薬として許容し得るその塩、溶媒和物、水和物、立体異性体、包接化合物もしくはそれらのプロドラッグを含む、中枢神経系障害の治療用又は予防用の医薬組成物。

【請求項2】

前記免疫調節化合物が、下記のものである、請求項1記載の医薬組成物：

【化1】

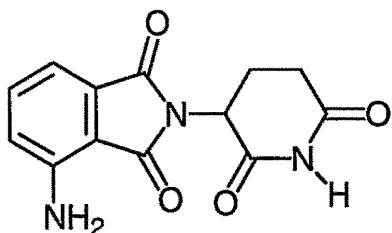


。

【請求項3】

前記免疫調節化合物が、下記のものである、請求項1記載の医薬組成物：

【化2】



。

【請求項4】

前記中枢神経系障害が、下記のものである、請求項1記載の医薬組成物：パーキンソン病；アルツハイマー病；筋萎縮性側索硬化症；進行性運動衰弱；神經免疫学的障害，CNS障害；パーキンソン症候群を伴うアルツハイマー病；運動緩徐；アルキネシア；運動制御、及び指機敏性を損なう運動障害；発声不全；単調言語；硬直；ジストニー；パーキンソン病に関連した炎症；顔、頸、舌、姿勢の震え；パーキンソン病様歩行；足を引きする；短い足の運び；加速歩行；気分、認知、感覚、睡眠の障害；痴呆；うつ病；薬剤誘発パーキンソン症候群；血管性パーキンソン症候群；多系統萎縮；進行性核上性麻痺；第一のタウ病理を伴う障害；皮質基底核変性；痴呆を伴うパーキンソン症候群；運動過剰障害；舞蹈病；ハンティングトン病；ジストニー；ウィルソン病；ツレット症候群；本態性振せん；ミオクローヌス；又は遅発性運動障害。

【請求項5】

前記中枢神経系障害が、筋萎縮性側索硬化症である、請求項4記載の医薬組成物。

【請求項6】

本発明の免疫調節化合物、又は医薬として許容し得るその塩、溶媒和物、水和物、立体異性体、包接化合物もしくはそれらのプロドラッグ、及び少なくとも1種の第2活性成分を含む、中枢神経系障害の治療用又は予防用の医薬組成物。

【請求項7】

前記中枢神経系障害が、パーキンソン病である、請求項6記載の医薬組成物。

【請求項8】

前記第2活性成分が、リルゾール、ドパミン作動薬、モノアミンオキシダーゼ阻害薬(MAO)、カテコール-O-メチルトランスクフェラーゼ阻害薬(COMT)、アマンタジン、コリンエステラーゼ阻害薬、制吐作用薬、又は抗炎症薬である、請求項6記載の医薬組成物。

【請求項9】

前記免疫調節化合物の立体異性体が、R又はS鏡像異性体である、請求項1又は6に記載の医薬組成物。

【請求項10】

前記第2活性成分、及び免疫調節化合物、又は医薬として許容し得るその塩、溶媒和物、水和物、立体異性体、包接化合物もしくはそれらのプロドラッグを含む、中枢神経系障害に苦しむ患者における、第2活性成分の投与に関連した有害作用を減少又は回避させるための医薬組成物。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

本発明の特定の実施態様において、中枢神経系障害、好ましくはALSを治療、予防、及び/又は管理するために、1以上のIMIDsを、1以上の第2活性成分とともに使用し、投与し、又は配合する。該第2活性成分の例を挙げると、ドバミン作動薬、レボドバ、モノアミンオキシダーゼ阻害薬(MAO)及びカテコール-0-メチルトランスフェラーゼ阻害薬(COMT)などのレボドバ治療を増強するために使用される化合物、コリンエステラーゼ阻害薬、グルタミン阻害薬、アマンタジン、抗コリン作用薬、制吐作用薬、及び他の標準的な中枢神経系障害用治療薬があるが、これらに限定されない。別の例において、該第2活性成分は、抗炎症薬であり、非ステロイド系抗炎症薬(NSAIDs)、PDE-4阻害薬、ジュンN末端キナーゼ阻害薬(Jun N terminal kinase inhibitors)、メトトレキセート、レフルノミド、抗マラリア薬及びスルファサラジン、金塩、グルココルチコイド、免疫抑制薬、並びに、パーキンソン病、及び関連疾患用の他の標準的な治療薬があるが、これらに限定されない。